

Heart on Coin “絆”プロジェクト 8月8日～13日現地活動報告書

～はじめに～

Heart on Coin “絆”プロジェクトは2013年8月8日（木）から13日（火）の日程で宮城県本吉郡南三陸町へ訪問し、南三陸町立名足小学校、南三陸町立伊里前小学校の児童を対象としたイベント「キズナツフェスタ」を2日間にわたり開催した。

－目次－

（～はじめに～）

1. 活動概要
2. 活動スケジュール
3. 活動内容
4. 感想

1. 活動概要

内容	夏休みイベント「キズナツフェスタ」の開催 伊里前小学校、名足小学校の児童41名を平成の森へ招待し、南三陸町にちなんだフラッグやかると作り、自分の夢をかいたうちわの作成やその発表、流しそうめんやバーベキューなどの活動を2日間にわたり実施した。（※宿泊した児童は4年生から6年生のみ）
日程	2013年8月8日（木）～13日（火） ※イベント実施日は10日（土）・11日（日）
目的	夏休みイベント実施のニーズに即するため
場所	宮城県本吉郡南三陸町 平成の森（南三陸町総合スポーツ施設）
参加者	Heart on Coin “絆”プロジェクト 7名 —小國栞（関西学院大学 総合政策学部4年） 亀崎綾乃（同大学 総合政策学部4年） 久保田真悠（同大学 法学部4年） 椎野佑梨（同大学 国際学部4年） 武政航平（同大学 総合政策学部4年） 齋藤未歩（同大学 社会学部2年） 林利憲（同大学 総合政策学部 2年） 芦屋キワニスクラブ 2名 —幸保和明氏、多田玲子氏

	仙台キワニスクラブ 2名 —小田忠雄氏、佐藤嘉昭氏 名足小学校 1名 —菅原和雄校長先生 国際協力アカデミーひろしま 1名 —關谷武司氏 その他 —Heart on Coin “絆” プロジェクト OB・OG 3名 他関西学院大生3名（非正規プロジェクトメンバー）
協力団体	芦屋キワニスクラブ、仙台キワニスクラブ、神戸キワニスクラブ 名足小学校、伊里前小学校 (順不同)

2. 活動スケジュール

8日（木） <小國、亀崎、久保田、武政、林、他関学大生3名> 20:40 東梅田 発 （夜行バス）		
9日（金） 8:27 仙台 着 （夜行バス）		
<武政、久保田、亀崎、関学大生1名>	<小國、林、関学大生2名>	
9:42 JR 仙台駅 発	9:00 イベント用品の購入	
12:31 JR 歌津駅 着	11:41 JR 仙台駅 発	
13:00 昼食		
14:00 伊里前小学校 着	14:31 JR 歌津駅 着	
16:00 イベント機材受取	15:00 平成の森 着、下見	
17:00 海家民宿やすらぎ チェックイン		
19:00 入浴		
20:00 夕食		
21:00 ミーティング		<齋藤、椎野>
24:00 就寝		20:40 東梅田 発 (夜行バス)

Heart on Coin “絆”プロジェクト 第3フェーズ

8月8日～8月13日現地活動報告書

文責：小國葉

10日（土）	
6：00 起床	
8：00 平成の森 着	8：27 仙台 着（夜行バス）
8：30 レンタル器具受け取り（BBQ用）	
10：15 キズナツフェスタ 開始	9：42 JR 仙台駅 発
10：30 レクリエーション ーチーム分け、フラッグ作り ー南三陸かるたづくり、かるた大会	12：31 JR 歌津駅 着
13：30 昼食 （流しそうめん、スイカ割り）	
15：00 レクリエーション（体を使った遊び） ーそこのけ、ジェスチャー鬼ごっこ	
16：15 夕食 （バーベキュー）	
17：45 夕食後片付け	
18：00 児童解散 ※一部の4～6年生はイベント参加続行	
19：00 花火大会	
20：00 入浴	
22：00 就寝	
11日（日）	
7：00 起床	
7：20 ラジオ体操	
8：00 朝食	
9：00 うちわ作り	
10：30 閉会セレモニー	
11：00 後片付け・掃除	
12：00 キズナツフェスタ 終了・解散	
13：00 平成の森 発	
13：30 伊里前福幸商店街での夏祭りに参加	
<小國、久保田、椎野、武政、他関学大生3名> 21：00 歌津中学校元校長先生のご自宅 着、泊	<亀崎、林> 14：00 南三陸発 （レンタカー）
	19：30 仙台 発（夜行バス）
12日（月）	
10：00 起床	7：12 東梅田 着 （夜行バス）

12:00 昼食	
19:30 仙台 発（夜行バス）	
13日（火）	
7:15 東梅田 着（夜行バス）	

3. 活動内容

① キズナツフェスタ実施経緯

名足小学校、伊里前小学校にはプロジェクト発足直後からご縁があり、定期的に当プロジェクトが実施しているニーズ調査にご協力して頂いている。今年4月にニーズ調査を実施した際、震災後毎年夏休み中に児童の学習支援や遊びのボランティアに来ていた団体が、今年から来ることが出来なくなったことを伺った。当プロジェクトは同時期に行った被災地でのニーズ調査で、被災地では「家族に気を遣い、自分の言いたいことを言えない児童がいること」「仮設住宅での生活はストレスを感じやすいにもかかわらず、遠出をする機会や外で遊べる場所が無い（夏休み中に）ストレスを発散する機会を持つことが難しい」などの諸問題があることを認識していたため、当プロジェクトはその団体に代わって児童を対象にしたイベント実施の提案をし、キズナツフェスタ開催へと繋がった。

また、今回のイベント実施には芦屋キワニスクラブ、仙台キワニスクラブ、神戸キワニスクラブの皆様にご協力頂いた。当プロジェクトは昨年9月に行われた芦屋キワニスクラブ主催の「キワニス子ども応援隊」に応募し、その結果特別賞を頂いた。この時頂いた特別賞の賞金をキズナツフェスタのイベント費として使用させて頂いている。また、特別賞以外にも芦屋キワニスクラブ、仙台キワニスクラブ、神戸キワニスクラブの皆様から全面的にバックアップして頂き、計画初期よりも大規模なイベントを開催することが出来た。

② テーマ 「子どもたちの未来と復興」

当プロジェクトはキズナツフェスタの実施が決定した当初より、子どもたちが「ふるさと」や「将来」について考えることに結びつくようなイベントの内容にすること決めていた。これはプロジェクト発足当初より私たちが「未来の復興を担うのは子どもたちである」という考えに基づき行動してきたこと、また4月のニーズ調査時に「子どもたちがふるさとに愛着を持つことが将来の復興に繋がっていく」「子どもたちにとって大事なことは、将来に夢や希望を持つことである」というお話を聞いたことを踏まえ、上記のテーマを設定した。

③ 活動内容詳細

■1日目

ふるさと・将来について考えるレクリエーション

・フラッグ作り

1チーム7～8人になるよう児童を振り分け、6つのチームを編成した。イベント中はこのチームで行動することにしたため、まずはチーム名決めとチームフラッグ作りを行ってもらった。



作成の様子



完成したフラッグ

・かるた作り、かるた大会

南三陸町にちなんだこと、日常にちなんだことを基に大型かるたを作成した。限られた時間で自分たちで読み札を考えること、絵札を書くことに苦戦している様子であったが、実際にチーム対抗でかるた大会を行うと大盛り上がりであった。



かるた大会の様子

大型かるたは遠くに置いて、みんなで走って取りに行くというルール

体を動かすレクリエーション（そこのけ、ジェスチャー鬼ごっこ）

児童を二手に分け、「そこのけ」と「ジェスチャー鬼ごっこ」の2種類の体を動かす遊びを行った。「そこのけ」とは、2人か3人でそれぞれタグを組み、陣地を取り合う鬼ごっこのことである。

食事風景（昼食：流しそうめん・スイカ割り、夕食：バーベキュー）

芦屋キワニスクラブ、仙台キワニスクラブの皆様、菅原校長先生、プロジェクト OB・OGにも昼食、夕食の準備にご協力頂いた。児童の中には流しそうめんやスイカ割りが初体験だという者も多く、皆で楽しい食事を共にした。



流しそうめんに夢中な子どもたち



スイカ割りの様子



夕食後、全員で集合写真

花火（一部の4～6年生のみ）

多くの児童を送迎した後、平成の森に宿泊する一部の4年生から6年生の児童と花火を行った。イベント終了後、「花火が一番楽しかった！」という児童の声もあった。

■2日目

うちわ作り

「自分の将来の夢」をテーマに、うちわに絵を描いてもらい、各々発表をしてもらった。各々自分の夢ややりたいことをしっかりと持っており、照れくさそうに発表をしてくれた。



折り紙を貼りつけるなど、
様々な工夫を凝らしている

筆が進み、2枚目のうちわに絵を描く児童



作ったうちわを持って集合写真

コラム 地元の高校生が手伝いに来てくれた！

南三陸町立歌津中学校の元生徒である高校生がキズナツフェスタのお手伝いに来てくれた。当プロジェクトは震災後何度も歌津中学校に訪問させて頂いており、その際仲良くなったのが当時中学3年生であった彼らである。イベント前日、約2年ぶりに彼らと再会し、急遽イベント当日に手伝ってもらえることになった。部活や勉強などが忙しい中、時間を作って駆けつけてくれた高校生には感謝の気持ちでいっぱいである。

4. 感想 （関西学院大2年 齋藤未歩）

このイベントは、子どもたちに自分の故郷について考えてほしいという思いがありました。私は石巻市出身で地元が被災しましたが、震災をきっかけにより故郷を大切にしたいという思いが強くなりました。何もないけれど、それでも落ち着ける場所であり、ふとした瞬間に改めて故郷の良さに気付くことが出来ました。このイベントを通して、同じ故郷を想い、いずれ復興を担っていく子どもたちと、故郷や将来について考えることができました。かるたには海への愛着が感じられる言葉や、中には震災の悲しさを表現するかるたもありました。震災から2年過ぎた中でも子どもたちの中にはまだあの時の記憶が消えることなく残っており、様々な思いを背負いながら生きているのだと思いました。

一部の高学年は平成の森に宿泊し、2日目は、みんなで夢を書いたうちわ作りを行い、書いた夢を発表してもらいました。自衛隊やゲーム会社で働きたい、オーケストラになりたいなど子どもたちの夢あふれる姿が頼もしく思えました。参加してくれた子どもたちは、元気いっぱいたくさん遊び、笑顔で帰ってくれました。イベントの開催までの間、正直学業との両立が難しく、辛いと思ったこともありましたが、「今日は楽しかった！」という子どもたちの言葉が、今までの辛さを吹き飛ばしてくれました。

イベントの企画段階から開催に至るまでの期間、少しでも多くの子どもたちに参加してもらうために、また参加してくれた子どもたちに笑顔で帰ってもらうために、何度も色々な方々を巻き込んで打ち合わせを重ねて参りました。私の至らなさ故に様々な方々にご迷惑をおかけしてしまいましたが、皆様からの温かいお力添えのお蔭で無事キズナツフェスタを成功させることが出来ました。心より御礼申し上げます。

また、様々な方々とのご縁に恵まれ、震災から時が経った今もこうして支援の輪が広がり、その中で主体的に活動をさせて頂くという貴重な経験を通し、多くの学びを得ることが出来ました。お忙しい中ご協力くださった名足小学校の菅原校長先生をはじめ、芦屋キワニスクラブ、仙台キワニスクラブ、神戸キワニスクラブの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。